

原マネージメント

三井不動産リアルティ

# 賃貸と分譲が共存する新築物件発表

## 400年続く2000坪の土地を開発

原マネージメント（神奈川県川崎市）と三井不動産リアルティ（東京都千代田区）は、今年6月にグラントオープンする「ゲートスクエア小杉陣屋町」の概要を発表した。「ゲートスクエア小杉陣屋町」は、賃貸マンションと分譲マンションを併設し、約900㎡の中庭やギャラリー、ドッグパークなども入る。



▶賃貸物件の「THE KAHALA 小杉陣屋町」の完成イメージ

立地は東急東横線新丸子駅から徒歩8分、中原街道沿いに面した

旧原邸跡の2000坪の土地を活用。賃貸の貸主・管理は原マネー

ジメント、仲介は三井不動産リアルティ、設計・施工は竹中工務店。

原家の12代目当主であり、原マネージメントの原正人社長は、「このプロジェクトを企画したのは、精神の継承が目的です。先祖代々から

受け継いだ土地を後世に残し、さらに原家に受け継がれてきた既存樹や庭石などを活かした住まい作りを構築しました。こうしたコンセプトに共感する方への永住型賃貸レジデンスを提案しています」と語った。

外観デザインは旧原家屋敷をモチーフにした大きなひさしを用いている。1階ラウンジには歴史ギャラリーを



◀見学した室内の様子

設置する。

建物は地上5階建てのRC造。賃貸の戸数は72戸（分譲は66戸）。間取り、面積は1K〜3LDK、42・52㎡〜93・45㎡。賃料は15万3000〜33万3000円（管理費別）

# 今週のひと

開発が続く神奈川県武蔵小杉エリアに、賃貸・分譲複合住宅「GATE SQUARE小杉陣屋町」を開発した原マネージメント（神奈川県川崎市）。代表の原正人社長に話を聞いた。



原マネージメント  
（神奈川県川崎市）  
原正人社長（57）

**モノを受け継ぐ時代は終わった  
土地に根付く精神を継承したい**

## プロフィール

昭和32年8月1日生まれ。神奈川県川崎市出身。

## 家系に抗い広告の世界へ

音響好きの父親に影響を受け、自身もロックやフュージョンに傾倒していたという少年時代。中学ではバンドを組み、ギターを担当した。プロの演奏家も友人に持つ原正人社長は、代々議員を務める家系に生まれた。しかし、自身は大学卒業時も政治の世界に興味を持たず、厳格な父親に反抗するように広告代理店への就職を決める。

## 議員生活に自問自答する日々

昭和56年、電通に入社。新聞局員として朝日新聞への広告出稿を考えるクライアントを多く抱えた。大手企業の大型キャンペーン企画等も担当していたが、36歳で退職する。それは「サラリーマンをやめろ」という父親からの突然の命令だった。平成7年、神奈川県議会選挙で当選。議員活動を開始するが、「知らない人の葬式に飛び込み、知らない人の結婚式で祝辞を述べる。自分は一体何者なのかと自問自答する毎日だった」と振り返る。苦悶は尽きず、1期4年で辞めた。

## 受け継ぐべきはモノではなく精神

電通時代の友人を頼ってアメリカに渡り、そこでPM事業を学んだのち2年後に帰国。その後、父の世帯を受けて、40年間代々受け継がれてきた莫大な土地を相続する。「モノを残すのは父の代まで。これからは精神を継承しようと思った」。今月20日、自宅跡地2000坪に開発した賃貸・分譲複合住宅「GATE SQUARE小杉陣屋町」を公開した。「敷地内には、永年生き続けてきた大木や人々に拜まれてきたお社を移設した。ここを、永く住まわれる場所にしたい」